

2014.6.21

アニヴァーサリー  
イヤール大特集

生誕300年のカール・フィリップ・エマヌエル・バッハとクルック  
没後100年のズガンバーティ  
生誕100年のフリッチャイとコンドラシン

プログラム

今年はリヒャルト・シュトラウスやジュリーニ、クーベリックといった大作曲家、巨匠指揮者以外にも多くの重要な作曲家、演奏家の記念の年に当たっています。今回はそんな作曲家、指揮者を大特集します。

大バッハの次男として生まれたカール・フィリップ・エマヌエル・バッハは、ハイドンやベートーヴェンに多大な影響を与え、古典派音楽への橋渡しの役割を果たした重要な作曲家です。今日は代表的な3作品をお聴きいただきます。クルックはオペラを劇的な作曲様式に沿った真実性のあるものにしようとし、18世紀のオペラ改革者と言われています。最も有名な“オルフェオとエウリディーチェ”から妖精の踊りの場面とその中間部を編曲した“メロディ”をお聴きください。ズガンバーティはリストの教えを受け、聖チェチーリア音楽学校校長の傍ら、ピアニストとして活躍。組曲口短調は最も親しまれている作品のひとつです。ハンガリー生まれのフリッチャイは1963年に48歳という若さで亡くなった名指揮者で、魅力溢れる新鮮な音楽表現を聴くと、現在でもその早い死を惜しむ声が聞こえてきます。コンドラシンは旧ソヴィエト、モスクワ生まれ。1960年から75年までモスクワ・フィルの常任指揮者を務め、このオーケストラを世界的水準まで引き上げました。1979年にオランダに亡命。1981年秋からバイエルン放送交響楽団の首席指揮者就任が決まった矢先、急逝してしまいました。ロシア音楽が得意なのは勿論ですが、古くから良きマーラー解釈者としても知られた名指揮者でした。今日は得意のロシア音楽と死の数時間前に行われた演奏会でのマーラーをお聴きください。この演奏会の後ホテルで休んでいたコンドラシンは、心臓発作を起こし帰らぬ人となりました。享年67歳。

\*\*\*\*\*

カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ (1714~1788):

トリオ・ソナタニ短調

オーレル・ニコレ (フルート) / ハインツ・ホリガー (オーボエ)

セルジョ・アツツォリーニ (ファゴット) / クリステイアーナ・ジャコッテ (チェンバロ)

(1989.11.12 ウィーン・コンツェルトハウス、モーツァルトサールでのLive)

ジャン・ピエール・ランパル (フルート) / マクサンス・ラリユー (フルート) / 鍋島元子 (チェンバロ)

(1973.10.17 新宿厚生年金大ホールでのLive) ~ 第2楽章のみ

シンフォニア口短調 (6つのシンフォニア第5番)

ライブツイヒ室内管弦楽団 (2014.3.6 ライブツイヒ・エムリーアルスタジオでのLive)

フルート協奏曲ニ短調~抜粋

マクサンス・ラリユー (フルート) / フランス室内合奏団 (1973.10.2 東京文化会館大ホールでのLive)

クリストフ・ヴィリバルト・クルック (1714~1787):

歌劇“オルフェオとエウリディーチェ”~第2幕“妖精の踊りの場面”

ステファニー・ブライス (メゾ・ソプラノ) / ジェームズ・レヴァイン 指揮 メトロポリタン歌劇場管弦楽団

(2009.1.24 メトロポリタン歌劇場でのLive)

メロディ (歌劇“オルフェオとエウリディーチェ” 妖精の踊りのピアノ編曲)

ネルソン・フレーレ (ピアノ) (1993.1.31 サールブリュッケン、コングレスハレ大ホールでのLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

ジョバンニ・ズガンバーティ (1841~1914):

組曲口短調作品21~第2曲“ワルツ” / 第3曲“エア”

ピエトロ・スパーダ (ピアノ)

ヨハネス・ブラームス (1833~1897):

交響曲第2番ニ長調 op. 73 ~ 第1楽章の一部、第4楽章

フェレンツ・フリッチャイ 指揮 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

(1961.8.27 サルツブルク祝祭大劇場でのLive)

アレクサンドル・ボロティン (1833~1887):

交響曲第2番口短調~第4楽章

キリル・コンドラシン 指揮 王立アムステルダム・コンサートヘポウ管弦楽団

(1980.6.6 アムステルダム、コンサートヘポウでのLive)

クスタフ・マーラー (1860~1911):

交響曲第1番ニ長調“巨人”~第3楽章最後~第4楽章

キリル・コンドラシン 指揮 北ドイツ放送交響楽団

(1981.3.7 アムステルダム、コンサートヘポウでのLive)